

ミスジヒメカラマツハバチ

春にカラマツの葉を食べるイモムシ（幼虫）。最大長約13mm。体は黄緑色、成長すると3本の暗い縦縞が現れる。
1980年代に多発が観察されている。



1. 終齢幼虫。1985/5/30。美唄市、カラマツ。



2. 食害。1986/7。早来町、カラマツ。



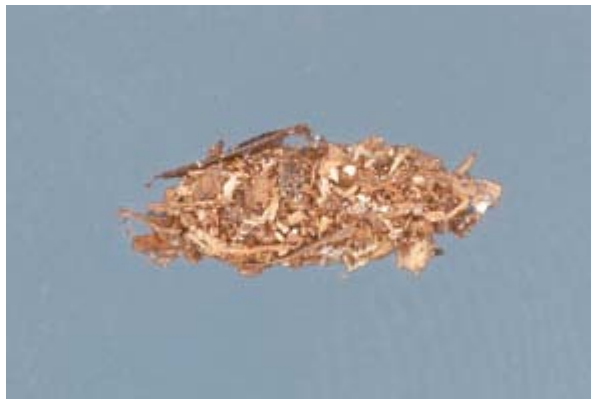
3. 産卵する雌成虫。1989/5/19。



4. 食害、遠景。1986/7。早来町、カラマツ。



5. 卵。1989/5/19。美唄市、カラマツ上。



6. 繭。

【学名】 *Anoplonyx orientis*

【分類】 ハチ目 (Hymenoptera) , ハバチ亜目 (Symphyta) , ハバチ科 (Tenthredinidae)

【分布】 北海道, 本州.

【特徴】

幼虫は体が後方に向かい徐々に細くなることと、頭部が黄褐色であることにより、カラマツを食べる他のハバチ類から区別できる。

【生態】

年1回発生。繭内で幼虫または前蛹で越冬する。春に成虫が羽化する。雌だけで単為生殖する。幼虫は7月には十分成長し、落葉中で繭を作る。秋までには前蛹になり、越冬し、翌年成虫になる。幼虫のまま越冬した個体は翌年も繭内にとどまる。

発育ステージ	～3月	4	5	6	7	8	9	10	11～
成虫・卵			○○	○					
幼虫（摂食・成長）			■	■■■	■				
繭内，幼虫～蛹	+++	+++	+++	+++	+++	+++	+++	+++	+++

【被害と防除】

北海道では1980年代後半に広域大発生し、初めて発生が確認された。しかし、1990年代以降は多発記録はない。多発した場合、6月下旬頃、食害により林は遠目より赤く目立つ。食害による枯死や穿孔虫の二次被害の発生は知られていない。防除は普通必要とされない。

【文献】

*1988. 石本雄一，原秀穂. 北海道におけるミスジヒメカラマツハバチの生態. 北方林業, 40: 7-12. (生態, 被害, 天敵)

*1989. 原秀穂. ミスジヒメカラマツハバチの生態と被害. 光珠内季報, 77: 18-19. (生態と被害の概要)

*の文献は北海道立林業試験場ホームページの「北海道立林業試験場・研究成果文献データベース」で見ることができます。

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ミスジヒメカラマツハバチ habachi/misujihikaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/23.

yochu.JPG, higaieda.JPG, sanran.JPG, higai.JPG, tamago.JPG, mayu.JPG

「写真1～6」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1985-1989.